

公立大学法人 北九州市立大学

学報



創刊号
(季刊)

《理事長就任にあたって》

北九州市立大学 理事長 阿南 惟正



このたび、北九州市立大学の法人化に伴い、理事長に就任する事となりました。全力をあげて、大学の改革と発展に向けて努力するつもりですので、よろしくお願いいたします。

昨年3月、理事長予定者として指名を受け、以後法人設立準備委員会の委員長として、この1月まで10回にわたり、委員会を主催して来ました。

その間に、今後の北九大の組織運営体制や諸制度、ならびに中期計画等について議論を重ねて来ましたが、その内容は既に皆さんが御承知の通りであります。この内容を踏まえて、大学改革を実現して行くためには、全学の教員、職員の皆さんすべてが、当事者意識を持って取り組んで行くことが必要であります。その意味で、皆さんの積極的参画を強く期待する次第であります。

私はこの4年間、北九州学術推進機構の運営にあっていた関係で、ひびきのキャンパスについては、ほぼ理解しているつもりだし、この間、北九州市の直面している政治経済面の課題についても勉強して来たつもりです。しかし、北方キャンパスについては、ほとんど知見がありません。ただ、昨年夏以来、各学部長はじめ、50人以上の先生方や、職員幹部と個別に意見交換を重ね、皆さん方がそれぞれに強い問題意識を持っている事を知り、心強く感じている次第です。これからは、その問題意識を私たち経営にあたる者に、どんどんとぶつけて来て頂きたい、と思っています。それを受けとめながら、私たち経営にあたる者は、きちりした理念の下、地域に貢献するこの大学の使命を果して行きたいと思っています。

法人化の最大の狙いは、自律的にして柔軟な大学経営であります。そのためには次の三点をモットーにしなければなりません。

- (1) スピード感のある迅速な意志決定
- (2) 効率的な仕事の進め方
- (3) 学生ならびに市民に対するサービスの充実、向上

これを実行するためには、何よりもタテヨコの意思疎通が十分にされる事が必要です。コミュニケーションによる相互理解が、全学の意志統一の最大の要件であります。

今回、幸いにして、学長には九大から矢田先生、事務局長にはTOTOから羽田野氏、経営企画担当局長には市から永津氏という強力なメンバーがそろいました。私はこのメンバーと一体となって、大学改革を推進する所存であります。

私個人にとって、北九州市は社会人としての第一歩を踏み出した、なつかしい思い出多い土地であります。今回の仕事を通して、この地域に貢献できるのは、まことにありがたい機会を与えられたと思っています。風通しの良い、明るく充実した大学の確立のため、全員が一体となって努力しましょう。

皆さんの積極的な参画を期待する次第であります。

I 平成17年度北九州市立大学入学式挙行

北九州市立大学体育館兼講堂（北方キャンパス）において4月6日（水）、約1700名の学生が入学しました。同大が公立大学法人となり、初めての入学式となります。その中で学生等に向け発せられた学長式辞について掲載を致します。

○北九州市立大学学長 矢田俊文 式辞



平成17年度北九州市立大学入学式を挙行するにあたり、末吉興一北九州市長、中島慎一市議会議長並びに市議会議員の方々、本学の後援会長、同窓会長をはじめ多数のご来賓にご臨席いただき、教職員一同を代表して、厚く御礼申し上げます。

本日晴れて入学した学生は、外国語学部、経済学部、文学部、法学部、国際環境工学部の5つの学部に入学者1526名、社会システム研究科、国際環境工学研究科など2つの博士課程、5つの修士課程に入学した大学院生177名、そして外国人留学生64名です。

新入生の皆さま入学おめでとうございます。また、新入生をここまで育ててきたご家族の皆様には、心からお祝い申し上げます。今日は、ご家族の皆様には、長い子育ての最終段階の始まりであり、新入生の皆さんは、自立の始まりの時でもあります。

皆さんがこれから学ぶ北九州市立大学は、今から半世紀以上前の戦後間もない1946年7月に小倉外事専門学校として創立され、50年に小倉市立の北九州外国語大学に昇格しました。その後、53年に商学部を開設して北九州大学とし、66年には文学部、73年に法学部が開設され小倉南区北方キャンパスに文系4学部の体制が整いました。さらに、80年代には、次々に大学院研究科を開設し、教育の充実を進めてきました。93年には、商学部を経済学科、経営情報学科からなる経済学部へ改称するとともに、外国語学部は外国語学科と国際関係学科、文学部は比較文化学科と人間関係学科、法学部は法律学科と行政学科（現在の政策科学科）の4学部8学科に再編成しました。

さらに、時代の要請に応じて、2001年には若松区のひびきのキャンパスに、環境化学プロセス工学科、環境機械システム工学科、情報メディア工学科、環境空間デザイン学科の4つからなる国際環境工学部を開設しました。本学では初の理工系学部で、これによって本学は5学部12学科からなる総合大学となりました。大学名も北九州市立大学と改称しました。引き続き2002年には博士課程の大学院社会システム研究科を2003年には大学院国際環境工学研究科を開設するなど、学部・大学院の整備・改編を着実に進めてきました。現在では、学部・大学院含めて、1学年学生定員1527名を数え、県立や市立など「公立大学」のなかでも首都大学東京、大阪市立大学などと並ぶ全国の有効公立大学の一つとなっております。

このような組織の再編・整備を進めてきた本学は、本年4月より、公立大学法人「北九州市立大学」として大胆な改革に踏み出すことになりました。これによって、大学の運営体制が大幅に変わります。従来の最高審議機関であった評議会に代えて、予算や人事など経営に関わる事項に責任をもつ組織として理事長、学長、副学長、事務局長のほか学外の委員が参画する経営審議会、教育と研究について責任をもつ組織として学長・副学長・学部長等からなる教育研究審議会の2つに分かれ、最終的には理事長、学長（副理事長）、理事（副学長、事務局長など）、監事からなる役員会が責任を負う体制となります。とくに、理事長と事務局長が民間企業経験者ということもあって、企業経営の手法を取り入れ、社会のニーズを直に反映した大学づくり、時代の流れにあわせたスピード感ある大学運営が可能となります。

新しい運営体制のもとで、従来の教育研究の在り方、学部・大学院・研究所の組織の再編成、大学院の充実、学生のニーズにあったカリキュラムや講義内容の充実、学生生活をサポートする事務体制の改善、広報活動、就職支援活動の強化などの諸改革を進めていきます。

皆さんは、法人格をもった、新しい北九州市立大学の第一期生であり、教職員とともに大胆な改革の担い手となります。

新入生の皆さん、これからの4年間は、長い人生の道筋を決める大切な時間となります。皆さんがここで身につけるべきことは、大きく四つあります。

一つは21世紀の情報化・国際化の時代に社会人として求められる基本的なスキルです。一言で表現すれば、コミュニケーションの時代に必要なIT機器を駆使するスキル、国際化の時代にますます必要となる英語力、そして生身の人間によるフェイス・ツウ・フェイスのコミュニケーション能力、つまり他人の意見を理解・尊重し、自己の見解をしっかりと主張する能力です。

しかし、こうしたスキルはあくまで「手段」であり、コミュニケーションを通じて表現される皆さん自身の中身を高めることがより大切です。まず必要なことは、幅広い知識です。人間として生まれ、生きていく上で、人類が築きあげた知識体系を広く身につけることが求められます。一人の人間として生きるために、社会の基本的ルールとしての法律、激動する社会を自分なりに把握するための経済学、生きている今を理解するための歴史、人間の本質を見つめる文学や心理学、そして、高度な文明を支えている地球環境や科学技術などについて、どの学部にあっても、基礎的・初歩的な知識を一通り身につけることが必要です。これを大学では、「教養」と称しており、アメリカの大学では、**Liberal Arts** とか **Arts & Science** と称して学部教育の根幹に置いています。本学では、多くの日本の大学で軽視されつつある「教養教育」を見直し強化していきます。これが二つ目です。

第三は、各学部・学科で提供される専門的知識です。皆さんは、大学を卒業されたら何らかの職業につきます。言うまでもなく、社会はたくさんの人々から構成されており、それぞれの人がそれぞれの役割を分担することで、社会全体が機能しています。皆さんも卒業したら、その一端を担うことになり、どの分野に就職するかは、学生時代の学部で学んだ専門知識が大きな意味を持ちます。その点では、基礎的な専門的知識をきちんと学ぶことも必要です。ただ、専門知識はいずれも奥が深く、社会人になってから身につく部分が多く、学生時代にマスターできるほど浅くありません。深めていくための入口に立つ程度といていいでしょう。

基礎的なスキル、幅広い教養、そして専門分野の基礎的知識の三つを身につけるだけでは不十分です。人間として生きていくためのしっかりした価値観、倫理を身につけなければなりません。教師、先輩、同僚と交わりながら、また、たくさんの本を読みながら、自ら価値観や倫理を身につけ、自らの行動基準をつくりあげなければなりません。しっかりした価値観をもった人は、周りの人からも信頼され、多くの人とコミュニケーションする機会が増え、たくさん情報と知識が得られ、人間としてもより豊かに、深くなるという好循環な境遇が得られます。

最近、多くの大学で学生の集団による不祥事が頻発しています。皆で渡れば怖くない、と自己を確立していない若者が、自分ひとりでは到底やらない、社会的に許されないことを集団で行うことが少なくありません。疑問を感じても、いわゆる「のり」で行ってしまう。自己の判断力が欠落するとともに、集団の行為から抜け出せないほど自己が確立していないことに起因すると言えます。集団と個人との「間」をしっかりとって、常に自らに正直に行動することを忘れてはいけません。これが四番目に皆さんが身につけなければならないことです。

皆さんが生きていける時代は、歴史的な大きな転換期にあります。戦後半世紀近く続いた米ソ冷戦体制が

終わり、中国が市場経済のもとで急成長し、世界経済が一つになるグローバリゼーションが進んでいます。そのなかで、イデオロギー対立から宗教対立、民族対立、さらにテロリズムが各地で頻発しています。また IC 技術をベースにした情報・通信革命は産業経済だけでなく、生活のあらゆる分野での変革をもたらしつつあります。DNA 解析の進展によって生命のあり方も大きく変わろうとしています。化石エネルギーの使用増加によって地球温暖化をはじめ、地球環境問題は抜き差しならないところまで深刻化しつつあります。

こうした厳しい国際競争と産業構造の転換のなかで、戦後半世紀につくられた日本の社会構造にもひびが入り新しいシステムの構築を迫られています。良い大学を出て、良い会社に就職し、終身雇用で会社内部の階段を上がっていくという従来の枠組みが崩れつつあります。大きな会社が倒産したり、M&A の対象になったり、リストラによって途中で退職を余儀なくされたり、10 年前では起きなかったことが現実となっています。

皆さんが学生生活を過ごす北九州市も、かつての鉄鋼・化学など素材産業中心の地域経済から、そこで蓄積された技術・人材など貴重な遺産をベースにしてハイテク機械・情報・環境産業など新しい産業の成長によって、再生しつつあります。環境首都としての知名度は世界レベルとなっています。北九州市立大学も国際環境工学部を設置し、また個々の地域政策に参画し、優れた自治体職員や市民を送り出すなど、地域変革の担い手となっています。激動する社会こそ、地域や大学が固定化した序列を突き破って飛躍するチャンスでもあります。個人個人も、大きな組織、名門大学出という空洞化したブランドに頼らず、それぞれの個性、身につけたスキルや専門的知識、豊かな人間性、生きていく信念を武器に大きく成長することができます。

こうした意味でも、皆さんのこれからの学生生活の過ごし方が大切になります。4 年間に、自分の個性と能力を発見するという「自分探し」を行い、さらに自らの力で、新たな付加価値をつけて、自己の能力と人格を高めること、これが皆さんの学生生活を実り多いものにする確信します。こうした学生生活が送れるような大学は、できるだけ支援します。充実した学生生活を実感できる学生がどんどん増えること、これこそが大学革命の真の使命です。

皆さんの長い人生の節目のときに、北九州市および北九州市立大学という同じ時間と空間を共有できることを私たち教職員の大きな慶びとなることを信じて、学長の式辞といたします。



II 役員会、経営審議会及び教育研究審議会の紹介

公立大学法人の審議機関として、役員会、経営審議会及び教育研究審議会が置かれています。重要な事項については、これらの審議機関の審議を経て、理事長又は学長が決定する仕組みとなっています。これらの役員会、経営審議会及び教育研究審議会は、その審議を通して、北九州市立大学の発展に重要な役割を果たすことが期待されています。

○役員会について

・役員会は、経営審議会及び教育研究審議会の上位の審議機関で、特に重要な事項を審議します。議長は理事長で、その他副理事長及び理事で構成されます（任期は4年）。開催回数は、月1回開催することを常例としています。

○教育研究審議会について

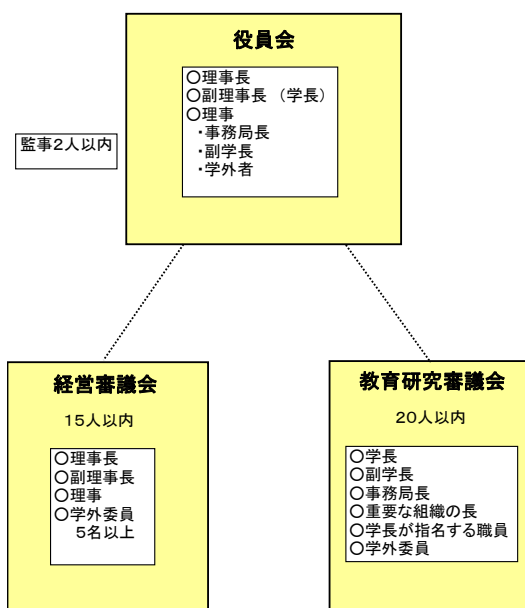
・教育研究審議会は、大学の教育研究に関する重要事項を審議する機関です。教育課程の編成に関する方針に係る事項、教員の人事及び評価に関する事項などが審議されます。

・教育研究審議会の議長は学長で、副学長ほか委員20名以内で構成されます（任期は2年）。また、開催回数は、月1回開催することを常例としています。

○経営審議会について

・経営審議会は、法人の経営に関する重要事項を審議する機関です。中期目標について市長に対し述べる意見及び年度計画に関する事項のうち、法人の経営に関するものなどが審議されます。

・経営審議会の議長は理事長で、副理事長（学長）、理事など委員15名以内で構成されています（任期は2年）。また、開催回数は、年4回開催することを常例としています。



役員会 (平成17年4月1日現在)

役職	氏名	所属等
理事長	阿南 惟正	
副理事長	矢田 俊文	学長
理事	重淵 雅敏	北九州商工会議所 会頭
	出口 隆	学校法人真魂館 理事長
	棚次 奎介	副学長
	国武 豊喜	副学長
	羽田野 隆士	事務局長
監事	奥 鶴雄	公認会計士
	清原 雅彦	弁護士

経営審議会

	氏名	所属等
学内委員		役員（理事長、副理事長、理事）
学外委員	明石 博義	西日本鉄道株式会社 取締役会長
	稲積 謙次郎	テレビ西日本 客員解説委員
	小島 通代	聖隷クリストファー大学看護学部 教授（日本赤十字国際看護大学 前学長）
	下村 雅夫	九州工業大学 学長
	高橋 孝司	安川情報システム株式会社 顧問
	富浦 梓	国立大学法人東京工業大学 監事
	中津井 泉	株式会社リクルート 「カレッジマネジメント」 編集長

教育研究審議会

	氏名	所属等
学長	矢田 俊文	
副学長	国武 豊喜	
事務局長	棚次 奎介	(学術情報総合センター所長兼務)
	羽田野 隆士	
重要な組織の長	兼口 真一郎	外国語学部長
	齋藤 貞之	経済学部長
	近藤 倫明	文学部長
	小野 善昭	法学部長
	高橋 進一	国際環境工学部学部長(大学院国際環境工学研究科長兼務)
	谷村 秀彦	大学院社会システム研究科長
	迎 由理男	全学教務主事
	赤塚 正幸	学生部長
	山崎 克明	北九州産業社会研究所長
	山崎 勇治	国際教育交流センター所長

学長が指名する職員及び学外委員は未定

○これまでに開催された役員会、経営審議会及び教育研究審議会の議題等について

期 日	区 分	議 題
4月 1日 (金)	第1回役員会	役員会規程、経営審議会規程、教育研究審議会規程、ほか
	第1回教育研究審議会	学則その他の規程、中期目標 ほか
	第1回経営審議会	業務方法書、料金の上限、学則その他の規程、中期目標 ほか
	第2回役員会	業務方法書、料金の上限、学則その他の規程、中期目標 ほか
4月12日 (火)	第2回教育研究審議会	中期計画、経営企画室ワーキング会議の設置、国際東アジア研究センターとの教育研究協力協定 ほか
4月19日 (火)	第2回経営審議会	中期計画
	第3回役員会	中期計画
4月26日 (火)	第3回教育研究審議会	学年暦、教育職員の採用制度の見直し、教授半数制の見直し
5月10日 (火)	第4回教育研究審議会	教育職員の採用制度の見直し、教授半数制の見直し、各種委員会の見直し

4月12日の教育研究審議会、4月19日の経営審議会、役員会において、中期計画が審議され、承認されました。

これに基づき、中期計画の推進に向けた体制づくりのために、現在、各種委員会の見直しについて審議を行っているところです。

また、中期計画の具体的な実施についても、すでに、①教育職員の新たな採用制度の導入、②教授半数制の見直し（教授の割合を2分の1から3分の2へ）、③教員研究費による旅費の見直し（現行の教員研究費のうち、旅費として使用できる額を18万円から30万円へ）等を行いました。

《学報発刊にあたって》

北九州市立大学は平成17年4月から公立大学法人となり、法人化の第一歩を踏み出しました。

新たな組織として、今まで以上に、大学教職員全体の情報の共有化を図るために、このたび学報を発行することとなりました。

役員会等の議決内容や年度計画等の内容を中心に年4回の発行（必要に応じて増刊）を予定しています。



公立大学法人 北九州市立大学学報第 1 号

発行 北九州市立大学事務局総務課
住所 〒802-8577 北九州市小倉南区北方四丁目 2 番 1 号
TEL (093)964-4004 FAX (093)964-4000
URL <http://www.kitakyu-u.ac.jp/>
E-mail shomu@kitakyu-u.ac.jp